

不妊治療で子どもを授かる

～不妊かもと思ったら、検査だけでも受けてほしい～

不妊治療を始めたきっかけ

結婚して1年、不妊治療を始めました。友人が不妊の検査に行ったと聞いたので、私もやってみようと思いました。

最初は、タイミング法から人工授精へと進みました。4回行い、仕事で人事異動があり、バタバタしていたので、いったん治療をお休みしていました。

職場も落ち着いた頃、上司の理解もあったので、体外受精へと進みました。採卵で何個か卵子が採れましたが、うまく受精卵が育たず全部だめでした。

体質改善をして臨んだ2回目の体外受精

いったん治療をやめて、自分の体質改善をしました。甘いものを食べない、ストレッチをする、体を冷やさない、漢方を飲むなど、自分にできることをしました。自分なりに準備をした2年半後、2回目の採卵をし、体外受精に臨みました。

2回目の体外受精で妊娠し、34歳で第1子を出産しました。治療前は、体外受精でできた子だと後ろめたさを感じてしまうのではないかと不安になったこともありましたが、妊娠が分かったら、すっかりその不安は消えました。本当にうれしかったです。

その後、第2子もできたらと4回目の採卵をしましたが、卵子の状態が

かなり悪くなり、やめ時だと思いました。やりきったという思いもあり、やめると決めた時は気持ちがすっきりしました。

いつも通りな家族、深く聞かない上司

不妊治療は、家族や職場など周りの人の協力が大切です。夫は、特別な言葉を掛けるわけでもなく、いつも通り接してくれていました。母に伝えた時も「悩んでいたんだね、体を冷やさないようにね」と、体を気遣ってくれました。

私は、働きながら不妊治療をしていたので、職場の理解は不可欠でした。上司に不妊治療の話をしたのですが、深くは聞かれず、理解してくれました。体外受精は、あらかじめ大まかなスケジュールが決まるので、早めに職場に伝えて、できる限り迷惑を掛けないようにと心掛けました。

不妊治療を考えている方、周りの方へ

不妊かもと思ったら、**ぜひ検査だけでもいいので、早く受けてほしい**です。出産できる年齢には限りがあります。

不妊治療は、家族や職場など周りに理解してもらって、受けられるものだと思います。理解した上で、普段通り接してもらえると、安心して治療に専念できますね。

市内在住

Aさん



【Aさんの場合】

28歳 ● 結婚

29歳 ● 不妊治療開始

タイミング法

人工授精(4回)

31歳 ● 体外受精(1回目)

33歳 ● 体外受精(2回目)

33歳 ● 第1子妊娠

34歳 ● 出産

35歳 ● 体外受精(3～7回目)

36歳 ● 採卵したが状態の良い卵子が得られないため中止

※体外受精をするため、最終的に4回の採卵を行い、受精卵を7回子宮に戻しました。そのうちの1つだけが育ち、生まれてきてくれました。期待と喪失感の連続でした。

▶ 不妊・不育相談窓口のご案内

愛知県では、「不妊」「不育」に関する専門家による無料相談窓口(電話相談・面接相談)を設けています。一人で悩まずにお気軽にご相談ください。

【相談窓口】愛知県不妊・不育専門相談センター

【専用電話】052-741-7830

【時間】月曜日 午前10時～午後2時／木曜日 午前10時～午後1時／毎月第3水曜日 午後6時～9時

※面接相談については予約制。電話相談時に受付。